

ぶどうのクビアカスカシバ防除を遅れずに実施

～発生時期が早く発生量も多い～

1. 現在までの発生状況と今後の発生予想

横手市防除適期決定ほ（2地点）のフェロモントラップにおけるクビアカスカシバ成虫（図-2）の初誘殺時期は、横手市大沢が6月1半旬（平年6月3半旬）、横手市十文字が6月1半旬（平年6月2半旬）でいずれも早かった（表-1）。また、6月1～2半旬の誘殺数は平年より多く推移している（図-1）。

以上のことから、クビアカスカシバ幼虫の食入時期が早まり、食入被害（図-3）が多くなると予想されるため、以下の防除対策を行う。

2. 防除対策

1) 薬剤防除（表-2）

- ・ガットサイドSを6月中下旬に主幹部に塗布又は散布する。
- ・テッパン液剤又はフェニックスフロアブルの1回目の散布は、6月20日頃までを目安に行う。スピードスプレーヤーで散布する場合は、全列散布を基本とし、枝幹に十分に薬液がかかるように散布する。なお、2回目の散布は7月中旬に行う。
- ・テッパン液剤又はフェニックスフロアブル散布後も虫糞排出（図-4）が認められる場合は、ロビンフードを食入孔へ噴射する。幼虫に薬液が到達するよう、粗皮を剥ぎ、虫糞を除去して食入孔の向きを確認してから噴射する。

2) 耕種的防除

- ・粗皮があると薬剤散布の効果が劣るため、粗皮剥ぎを行ってから薬剤処理する。
- ・以前に本虫による被害を受けた部分や根頭がんしゅ病の発病部分で被害が多いため、食入部から排出される虫糞を目印にして、幼虫を早期発見して捕殺する。

3. 資料

表-1 横手市防除適期決定ほ(2地点)のフェロモントラップにおける初誘殺時期

	横手市大沢	横手市十文字
2024	6月1半旬	6月1半旬
平年	6月3半旬	6月2半旬
概評	早い	早い

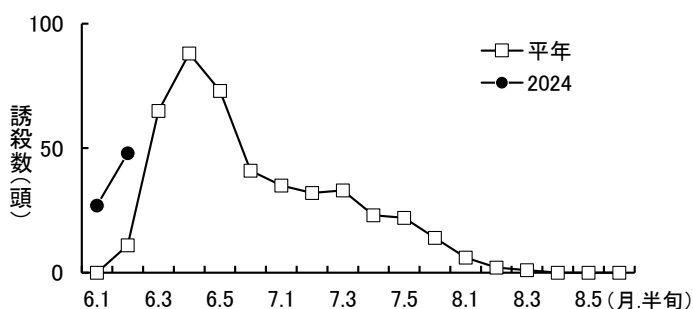


図-1 横手市防除適期決定ほ(2地点)のフェロモントラップにおける誘殺数の推移

表-2 クビアカスカシバの防除薬剤

RAC コード	農薬名	希釈倍数	使用方法	本剤の 使用回数	各成分の 総使用回数
1B	ガットサイドS	1.5倍	主幹部に塗布又は散布	2回以内	4回以内※ ¹
28	テッパン液剤	2,000倍	散布	2回以内	2回以内
28	フェニックスフロアブル※ ⁴	4,000倍	散布	2回以内	3回以内※ ²
3A	ロビンフッド※ ⁴	—	樹幹・樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射	5回以内	7回以内※ ³

RACコード 1B:有機リン系剤 28:ジアミド系剤 3A:ピレスロイド系剤

※1:4回以内(収穫終了後から萌芽までは2回以内、萌芽後は2回以内)

※2:3回以内(樹幹散布は1回以内、散布は2回以内)

※3:7回以内(噴射は5回以内、散布は2回以内)

※4:「スカシバ類」で登録

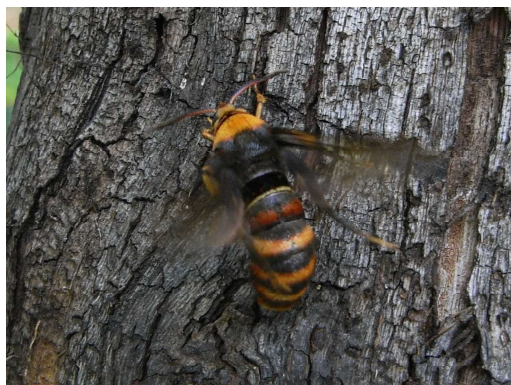


図-2 成虫



図-3 幼虫による食入被害



図-4 虫糞の排出状況

【 問合せ先 】

秋田県病害虫防除所 TEL 018-881-3660

秋田県果樹試験場 TEL 0182-25-4224

掲載HP <https://www.pref.akita.lg.jp/bojo/>